

クリップ

■入会届・退会届について

葉書に、①氏名(ふりがな)
 ②住所 ③電話番号 ④生年月日
 ⑤性別 ⑥送本開始(停止)月を記入の上、本社に提出してください。退会届の場合は、①②⑥の記入をお願いします。急な送本停止には対応できませんので、ご了承ください。

■会費納入について

二〇二〇年度分の会費を未納の方は納入してください。会費は、半年分、または一年分を前納することになっています。各欄の月額は次の通りです。

- ・ A欄 二〇〇〇円
- ・ B欄 一五〇〇円
- ・ C欄 一〇〇〇円
- ・ 購読 一〇〇〇円

二十歳未満の学生は五〇〇円です。(若い人たちは是非ご勧誘ください)

00160・4・179569 地中海社

振替用紙の連絡欄に内訳をお書きください。支社・グループでまとめて納入していただける幸いです。

■原稿用紙の申し込みについて

一冊一五〇円。それに送料がかかりますので、まとめての申し込みがお勧めです。本社、または担当の茂木斌までご連絡ください。

■本誌の追加注文について

本社に葉書にてご連絡ください。代金は一冊一〇〇〇円。会費と同じ「地中海社」の口座にお願いします。

■見本誌について

勧誘用に見本誌をお求めになる場合は、送料のみご負担いただけます。二冊までなら二〇〇円分の切手を同封してお申し込みください。

■歌集を出版する際には

地中海叢書番号をご請求ください。葉書に住所氏名の他に、①歌集名(未定の場合には仮題でも) ②発行時期 ③版元を記入して本社宛に。折り返し、登

録した叢書番号と事務手続きの文書をお送りいたします。出版後には本社保管用に一冊お送りください。

■九曜書林は、比較的安価な歌集出版を考えていて、自分ではどうしていいか分からず困っている方のために立ち上げました。

印刷・製本は、本誌の印刷をしている京成社にお願いしています。二、三〇万円くらいでも予算に応じた出版が可能です。まずは、編集部にご相談ください。

■桃原邑子歌集

『沖繩へ新装版』注文受付
 ご注文を受け付けています。

一冊2000円(税と送料は桃原氏負担)です。六花書林からの出版ですが、代金の振り替えは九曜書林の口座を使わせていただきます。口座への代金納入をもってご注文とさせていただきます。冊数・氏名を明記の上、左の口座へお願いします。

00180・2・790255 九曜書林

本社よりスマートレターにてお送りいたします。

■本社への連絡について

葉書か封書でお願いします。電話はありますが、常駐する者がおられませんので、誰かが本社で作業している時にしか通じません。急を要する場合には、
 ・ 藤森：☎ 090-8301-6423
 ・ 久我：☎ & FAX 043-241-7925
 までご連絡ください。

■本社の窓口は、いつでも開いています。どんなことでも遠慮なくご相談ください。歌集の出版につきましても、予算やご希望に応じてできる限りの対応をさせていただきます。ご意見その他もどうぞお寄せください。



神田通信

●原稿の送り先●

9月10日締切(11月号分)

の原稿も左記へお送りください。

263-0031 千葉市稲毛区稲毛東

6-10-2-1202

関谷方 久我田鶴子

◆あまりにひどい七月の豪雨災害に心が痛みます。一日も早く日常生活が戻りますように。

(木村)

◆・湿地地にどくだみ群れて白かりきありありとして今に つながる(久方寿満子)

歌誌「月虹」に六月の花として紹介されていました。(小野) ◆線状降水帯なる言葉をはじめて知った。毎年のように襲う大雨洪水土砂災害に日本列島はズタズタである。コロナウイルス

に加えて試練がつづく。(高尾) ◆「My Shun」というタイトルの、素敵な文章と写真の載った通信が送られてきた。私も「今が私の旬」と言えるような毎日を送りたいものだ。

(藤田)

◆もし、今のコロナの報道と同じ規模でインフルエンザの罹患数や死亡者数を報道すればどんなことになるのだろうか。ふとそんなことを思った。(成彦)

◆コロナ禍に雨続き、脚の調子も良くない母はどこにも行けない。そこに届いた一幅の掛け軸。眺めては心も身体もまるで旅をしたように変わりゆく母の不思議さ!

(和美)

◆七月に入っても本社に行けておりません。磯田さんが本社へ通ってください、総務関係の郵便物は私宛に送ってもらって入退会の処理など出ています。感謝です。(藤森) ◆友人がマル・ウォルドロンのLPを借りて来たので彼の部屋

で聞いた。「オール・アローン」だけ酷く擦り切れていた。ふと持主のことを思った。(三好) ◆検疫の英語カランティンは40を意味していて、それはベストの流行時、船舶を港外に40日間停泊させて発病の有無を検査した名残りというのを知りました。新型コロナでまた復活。

(茂木)

◆四月から編集委員になったもの、ここ数ヶ月編集にも校正にも参加できていない私。地中海が届く度に有り難さと申し訳なさが渦巻きます。(玉井) ◆「諸悪の根源は東京」といわれる東京に、更に浅草に住んでいる。コロナの感染者の増加は肩身が狭い。万事休すだ。しかし、負けてはいられない。(磯田)

◆妻を亡くした父が昔寂しそうに言った。「生きていくのに多くのものはいらない」諸々制約の多い今、自分にとっての(大切)を改めて考える。(棺恒)

◆七月三日、お願いしていた皆さん全員から校正が戻ったので見直しをして、翌日、印刷所に戻し、七日に再校。

◆七月十四日、磯田さんが本社に届いた原稿を転送してくれたのを受けて、一気に今号の編集作業。夕方、宅急便で印刷所に入稿しました。

◆四月半ば以降、本社での作業は控えて、校正は手分けしてそれぞれ自宅で、編集は久我宅で行っています。コロナ感染の終息が見られない中、9月10日締切分の原稿についても、久我宛にお送りください。

◆今号は、仲西正子歌集「まほら浦添」の批評号です。社外から田村広志氏のご批評をいただきました。沖縄で今も父の遺骨を探しておられる田村さん、ありがとうございます。

◆「写真歌合わせ」の応募締切は八月末日、急げばまだ間に合つかもしれません。(久我)